

令和5年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和6年2月8日（木） 午前10時00分開会

2 開催場所 袖ヶ浦市郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委 員	加藤 正人
副委員長	友田 賢司	委 員	木曾野 真紀
委 員	平川 真	委 員	近藤 敏
委 員	山本 博	委 員	地引 尚幸
委 員	今井 恵子	委 員	唐木 義昭

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	主 幹	稲葉 理恵
生涯学習課長	島田 宏之	主 幹	桐村 久美子
顧 問	井口 崇	副主査	水流 拓馬
館 長	西原 崇浩		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5 人
傍聴人数	0 人

6 議題

- (1) 令和5年度郷土博物館事業の成果と課題について
- (2) 令和6年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに
令和6年度事業計画(案)について
- (3) その他

7 議事

- (1) 令和5年度郷土博物館事業の成果と課題について

伊藤委員長 では、議題（１）令和５年度郷土博物館事業の成果と課題について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 令和５年度の実績について報告がありましたけど、質問がある方お願いします。

唐木委員 袖ヶ浦の外来種という企画展がありましたが、学校の教材として非常にいいのではないかという印象を受けたのですが、企画展を見て上池の周りをまわって、という見学者はあったと思うのですよ。そういうパターンもいいと思うのですけれど。これは学校サイドからの見学者はあったのでしょうか。それと逆に博物館から学校の方に見てくださいというアプローチはしたのでしょうか。その辺をお伺いしたいです。親子関係事業の開催ということで、企画展のことが書いてありますが、これは何をしたのでしょうか。

それから２つめですけれど、十五夜コンサートは令和元年度の台風の時に雅楽の会で企画して、その後コロナ禍で中止し、結局実施していない。そのあたりの経緯をお聞きしたい。この事業には、私は思い入れがあります。

事務局 では、まず企画展からですが、学校との連携について、今回企画展の開催にあたり、学校にはポスター・チラシをお配りしましたが、学校単位でどうぞ来てくださいというような呼びかけは、特にはしていません。学校の方としましても、おそらくいろいろな授業や行事がある中で、そういった時間は取れないだろうという考えだったのでそこまでしませんでした。

今回の企画展はたくさん子どもたちや親子連れに見ていただきたいという思いはありましたところ、学校よりも家族単位でたくさんの見学者が来てくださいました。小さなお子さんが自分から「動物さんが見たい」というように言ってくれますと、お父さん、お母さん、それからおじいちゃんおばあちゃんといったご家族で来てくださいますので、相乗効果でたくさんの方にご来館いただきました。また、学校への呼びかけも、今後はこういった子どもにも楽しんでもらえる企画展があった時には、積極的にしていきたいと思

います。ありがとうございました。

事務局 企画展の中の親子向け事業について、企画展担当からご説明いたします。例年夏に、特に子供向けとして上池生き物調査隊という、上池で生息している生き物の調査を子どもたちと一緒にを行うという事業を行っています。今回、こちらの拡大版ということで、例年午前中に調査をして、生き物の講評をしておしまいというところだったものを、県の生物多様性センターの方を招きまして、より深く生き物の観察とこの周りの生き物の現状というところを、お子さんと一緒に参加された親世代の方と実際の生き物を調べて、どういった生き物がいるかを知って、同じようなところで、この外来種展の関連付けしようということで開催いたしました。

唐木委員 とりあえず企画展であっても、学校関係で見てもらった方がいいものはそれを利用して、機会をとらえてやっていただきたいと思います。

事務局 はい、ありがとうございます。また、十五夜コンサートですが、市民学芸員の自主企画イベントとしてこれまでやってまいりましたが、コロナで中断していた間に、市民学芸員の方もこれまでのレギュラーメンバーがだんだん高齢化していきまして、その間に市民学芸員養成講座というのを始めて新しい人たちが入って来て、世代交代が起こりつつあります。そうすると、以前の方たちの企画でありました十五夜コンサートを、そのまま同じ形でやっていく必要があるのかなのか、そういったところから検討いたしまして、今年度につきましては十五夜コンサートに代わるものとして、万葉こどもまつりというのを試しでやってみたところです。万葉こどもまつりの方はそれぞれの出し物も全て市民学芸員の発案で、自分たちがアイデア出したものを実現し、責任持ってやっていくという形で実施しました。参加した市民学芸員にとっても大変やりがいがあるイベントとなったと感じております。

十五夜コンサートをまた今後復活させるか、このまま別のイベントに移行させていくか、あくまで市民学芸員の自主企画ですので、市民学芸員との相談で決めていきたいと思っております。

他にもアイデア等がございましたらぜひ教えてください。それだったらぜ

ひやりたいという市民学芸員もいるかもしれませんので、またよろしく願いいたします。ありがとうございました。

平川委員 この外来種展での学校との連携でございますけれども、今お話しがあったように、ポスターとかチラシ等は学校にも配布があり、新千葉新聞でも紹介されましたが、やはり年度の初めの段階でそういう各学年の行事等はある程度決められておりますし、ここに来るまでの輸送手段もまた検討しないといけないので、急に入れるのは、なかなか厳しいような状況もあるんですね。

ただ、やはり個人的にこういう生き物等は好きな子どもたちもいて、「行ってきました」なんていう報告も受けております。本校の場合ですと、地元にある椎の森とかで、やはり同じように外来種を調べるというのを6年生が取り組んでいます。また、博物館には立派な資料なんかもありますので、そういうのとうまくリンクさせながらやっていけるといいかなと思っています。

事務局 ありがとうございます。

伊藤委員長 その他いかがですか。

地引委員 今の関連で、私は市原市に住んでいますが、妻が小学校の心のサポーターをしているのですが、これを見てきたという子どもが本当に楽しそうに語るようなところ。これは袖ヶ浦と銘打っていますけど、生き物については地域をあまり限定しなくても関係ないですから、とても楽しそうに語っていて、ああいう所に来る子は悩みを抱えているんですけども、これが大好きで一生懸命話をされていて、私1冊これ持っているんだけど、図録を妻にあげたらその子に渡って、とても喜んでいました。そういう意味でこういう分野のニーズは非常にあるんだろうなと思いました。ですから、学校単位ということじゃなくて、いっぱいコマーシャルしてあげれば、子どもたちは食いついてくるな、こういうものが一つの拠り所にまた育っていくのかもしれないなと思いました。

それであともう1つお聞きしたいのですが、博学連携のところで中学校が出ているのがとっても嬉しくて、なかなかこういうところに中学校が入ってくることはないんですけども、僕も中学校で教員をしたことあるのですが、実は

現場で見せる資料がないんですよね。こういうものってとてもありがたくて。今根形中学校が出ていますが、それは、今後広げてやっていくのでしょうか。そのあたりをいただければと思います。

事務局 こちらは、中学校元教員で、現在、社会教育指導員の方が博物館に在籍しているのですが、その方が中心となってやってくれて、プログラムから作り、やっと実践を始めたところであります。本当はもっといろいろな学校に使ってほしいところではあるのですが、やはり中学校はなかなかこちらには来づらいということがありますのと、根形につきましては、山野貝塚が地元根形地区にあるということで積極的に取り入れてくれて、このところ毎年実践してくれています。

西原館長 博物館の課題だった中学生へのアプローチがちょっと不足していたもので、それを機に学校の補助教材としても使えるようなプログラムを作ってもらいたいということで、先生にお願いしてある程度形になりました。

それを実践しようと学校の課題授業みたいなのと連携をして、長浦中で連携をして授業も行っていたのですが、さて次の段階に入ろうと言ったところで、ちょうどコロナが出てしまいまして、ここで全てが潰れてしまいました。今はもう一回やり直そうかと取り組んでいるところです。

木曾野委員 小学校の3年生の社会だと昔の暮らしを体験しようというのがあります。先生が大変だとは思いますが、小学校3年の先生対象の研修ができたらいいいのではないかと思います。

外来種展の話でも、チラシは小学校とか幼稚園に配布していただいているので、それが親に配られて親が手に取ってみると、じゃあ行ってみようかなと思います。子どもがポスターとか見て、行きたいなと思っても、学校に貼ってあるだけだと親までなかなか伝わらない。チラシの配布は重要です。

わんぱくクエストですが、博物館がすごく協力していたと思うんですけど、それについてこの成果だとこの中に特に入っていないですがいいのですか。

事務局 今のわんぱくクエストの話ですが、生涯学習課との連携という感じで、一緒

に書いてしまったと思いますが、せっかくやっていることですので、付け加えたいと思います。庁内関係各課との連携で生涯学習課と連携云々と書いてあります。文化財関係に特化した書き方をしてしまったのですが、こちらの備考欄にわんぱくクエストの協力を入れさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

それから、教職員対象研修の実施ということです。おっしゃるとおり、昔の暮らし体験ですが、まず子どもたちが体験する前に先生が知っておくというのは大事なことです。こういう研修をやりますという呼びかけをしていきたいとは思っています。去年は教職員向け研修は1回あって、その1回というのは、中川小学校の横田郷について学ぶというものでした。私と社会教育指導員と2人で中川小学校に行って、横田郷という中世の村が復元できるということで、大変話題になった事例があるんですけど、中世の話だけではなく、発掘で見つかった資料なども紹介しながら、先生の研修ということで対応したことがあります。こちらの方からも実はあまり積極的にアピールしてなかったんですが、今後は博物館で学芸員の派遣等も含めて、先生の研修に活用していただくことができますよというのをもっとPRしていけたらなと思います。それから、チラシの配布についてはおっしゃる通りでして、万葉こどもまつりの時は全ての小学校と市内の幼稚園、保育園の子どもたちの手に渡るようにチラシを配りました。そちらが功を奏したのか、万葉こどもまつりは大変たくさん子どもたちに参加していただけたので、今後ともこういった子どもを対象とした事業につきましては、チラシの配布には力を入れていきたいと思っています。

伊藤委員長 チラシの配布は効果がありますね。今回は外来種の展示ですが、絶滅危惧種についても、里山再生の方でも注目されていますから、今まで絶滅危惧種だとわかっていなかったこともわかるようになってきて、そうやってしっかり管理してくればすごいものも見つかるかもしれないです。

他にはいかがですか。

加藤委員 調査研究で課題が指摘されていますけども、これ今年度に限ったことじゃないと思うんですね。ずっと継続されていて。これに対しての対応はいろいろ考えられていると思うんですけども、同時に業務の見直しというのも一つあ

ると思うんですけど、あまりにもこう仕事量が多くてなかなかその調査の方に、時間がかけれないというのであれば、トータルで業務を減らしたり、業務の見直しをして、対応するという、人員の配置が難しいならば、そういうことも今後は考えていかなければ、毎年こんな状態が続いていると、ダメになっちゃうと思うんですよね。その点の対応についてお聞きます。

西原館長 これにつきまして、以前からご指摘いただいていたことかと思います。おっしゃる通りですね。毎年同じような課題が広げられて、その対応はということですが、あまり対応はできておりません。今おっしゃられたようにですが、何かを削るなり人員体制を変えるなりしない限りはちょっとこれは改善は難しいと思っております。ただ、業務を減らすにしても、今までやってきた経緯もございまして、なかなか減らすということもできない中で、今までは企画展を年3回開催していたんですけども、それをまず1回減らす。それで少しでも調査研究等に回せるようにしたんですけども、その分また別な業務をするといった悪循環がありますので、なかなか調査研究に回せないというのが現状です。これにつきましては、また人事とかを絡めた話になってしまいますので、なかなか難しいかと思いますが、また可能な範囲での対応になってしまいますが、検討していきたいと思います。ただ、スタンスとして、調査研究は博物館の大事な業務という認識ではあります。

事務局 事業を实践する側としての立場から言いますと、お配りした資料の中にも来年度の事業計画の予定でございしますが、年度当初に計画している事業というのはこちらに記したくらいの量なんですね。この中には友の会や市民学芸員の事業も入っておりますので、必ずしも多すぎるということはないかと思うんです。ですが、だんだんこう時間が取れなくなっている要因としましては、先ほど説明も公民館からの依頼された事業が18件とかありましたけれど、当初予定してないものが後から入ってくるわけです。そういったことで、その都度の対応を求められるうちに、調査研究等が後回しになっていくという現状はあるかと思えます。ただ調査研究をないがしろにしてるわけではなく、資料にも課題として、あえて企画展等といった機会がないと十分に調査の時間が取れないというふうに書いたわけですけど、そういった企画展等の機会を活用しまして、

調査を広く、またさらに深くしているということはありますので、事業が必ずしも調査に悪い影響を与えているわけではなく、事業のために調査も進んでおりますので、そのような実態もご理解いただければと思います。

近藤委員 印刷するときは今ほとんど電子製版なので、印刷屋に出すときに、保存用のちょっと重いデータとホームページからダウンロードできる軽いデータと2つ作るということを印刷の仕様書に書いてしまう。向こうの方としてはデジタル製版しているので、最終的成果品としてディスクでくださいとします。DVDだとほとんど入りますので、そういう仕様書を作ってしまうと、この後デジタル化するという職員の負担も減ります。そういうことを市原はそういうことを今、しているんですね。で、それをそのままホームページにのせてしまう。したら、欲しい所はそこからダウンロードして渡すこともできますので。資金面で問題があるようだったらそういう形でもできるし、仕様書に書くこと自体で多分、印刷費が上がることはほとんどないので、そういうことでちょっと工夫されてもいいと思います。

事務局 今おっしゃっていただいたような仕様書の中に書くことは、重いのか軽いのかというところまではやってないですけど、PDFでデータをくださいということは仕様書には書いておりますので、できるんですけど、そこは我々が今後気をつけていかなければいけないところではあるのですが、借用資料がありますので、HP上で公開していくことについての許諾の問題等があります。その辺をクリアしたものであれば、今後そういった活用もできるのではないかと思いますので、検討していきたいと思います。ありがとうございます。

(2) 令和6年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和6年度事業計画(案)について

伊藤委員長 では、(2) 令和6年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和6年度事業計画(案)について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 何かお聞きしたいことがありましたらお願いします。

唐木委員 博物館に親しみを持ってもらおうと考えまして。企画展だけではなくて、ソフトな行事はやっぱり続けていくべきだと思います。気軽に博物館で音楽を楽しみましょうという音楽会でもいいんじゃないのかなという気がします。それで、音楽をお願いするところですけども、秋になると公民館祭りとか市民会館なんかで市民サークルの人たちが結構演奏していますよね。あの方たちをお願いして演奏してもらってはどうかと思います。選ぶジャンルがあると思いますけど、それは選んでもらえばいいんじゃないのかなと思います。それで、例えば進藤家活用の一環としてですね。十五夜の古民家コンサートというような名前で、開いてもいいんじゃないのかと私は思うんですけども。形を変えたから準備や手間が軽くなるというわけではないとは思いますが、形が変わればやり方も変わってくるんじゃないのかと思います。そういうことで検討してもらえればと思います。せっかく十五夜コンサートという名前が浸透してますからね。ここ何年かやってないとはいえ、浸透してますから、ここで断ち切るのは惜しいような気がするので、やれるような形で、検討していただきたいなと思います。

事務局 ありがとうございます。十五夜コンサートの今後については、今年度は万葉こどもまつりに変えてしまったんですけど、今後十五夜コンサートをやらないというわけではなく、また検討していきたいとは思っています。ただ、現在、市民学芸員の方から上がっている声といたしましては、以前からのメンバーの高齢化が進んでしましまして、夜出てくるのが辛いという声も聞きます。それで、十五夜にこだわらなければ、これを昼のイベントにしてしまうのもありかと思ってはいるんですけど、やはり十五夜コンサートで継続するのがいいという考えであれば、また実施しやすい方法を考えていきたいと思います。

一方で後から養成講座を受けて入ってきた市民学芸員は、比較的若い方たちもおります。元気でいろいろなアイデアがある方たちもおりますので、十五夜イベントというところを維持しながら、また内容的にはまたその人たちのやりたいことを実現できるというスタンスでやっていけたらと思っております。いずれにしても、市民学芸員と検討を重ねていきたいと思いますので、今後に期待していただければと思います。

今井委員 6年度の企画展の予定に袖ヶ浦の出羽三山信仰があります。とても期待したいと思います。旧の地域長浦、久保田、蔵波、浜宿といった所では、月山・湯殿山・羽黒山にお参りするという信仰が一部に残っています。それで、1年に1回山伏さんに来ていただいて、お正月ですけれども、その地域の人たちの安全とか健康とかを祈ってくださる。そういうのがありますので、ここを出てくるととても嬉しいと思います。山伏さんが宿と言いまして、家に一泊していくんですけれども。今井家の繁栄などを祈ってくれて。企画展で年配の新しい住民の方たちも食いついてくれるような、そういうものが出てくると嬉しいなと思います。まだやってる人いるんだね、まだ山伏さん来てくれるんだね、というような発信になってくれると嬉しいです。あと、話が変わりますけれども、昔からの習わしのお盆の時の定例の祭りとか、あるいは祭り囃子とかそういう博物館でしか取り上げられないようなものが、コンサートで見られる。祭り囃子とかなくなってしまう前に、2年に1回でもいいから、博物館でコンサートみたいな形でもみんなに見ていただけると嬉しいなと思います。あと、もう一つ、私旧進藤家住宅で昔話のお話会をやらせていただいたことがありました。もう随分前ですけれども、図書館のボランティアの方はまだやってくださると思いますので、地域の昔ばなしを進藤家の土間でやるということがあったら嬉しいなと思います。

伊藤委員長 出羽三山は、私も行きました。神納も講の活動があります。役員やった時に行かされて、死ぬ思いで登りました。泊まる宿も地区によって決まっているんですよ。

今井委員 できれば、なくならないでほしいなと思います。形は変わっても、祈る力とか、こういう行事が続いていったらいいと思います。

友田委員 山伏さんはどこから来るんですか。

今井委員 山伏さんは、地域ごとに宿があって、修行して山伏の資格を取った人が地域に来ます。

木曾野委員 15年位前に県中央博で出羽三山の企画展があったのですが、ちょうどその時中央博でアルバイトしていて、その展示で担当の学芸員がはりきってやっていたのは、千葉県各地に講があるから、その講によって一定の資格を得た皆さんは、その地域の出羽三山の碑が立っている後ろに、俺行ったっていう梵天を立てるんですよ。それを中央博の企画展ではいくつか展示したんですよ。そしてその展示したものを作ったおじさんたちがマイクロバスを仕立てて、みんなで来て、ちょっとずつ装飾が違うので、これいいな、俺たちもこれやろうとか言って盛り上がっていました。あまり博物館に来ないようなおじさんが集団でわいわい言っていたので、それがここでもあったらおもしろいかなと思います。

近藤委員 企画展の出羽三山ですが、この頭に協働によるというのがありますが、協働というのはどこかと協力するとかいうことですか。

事務局 はい。これは市民学芸員との協働ですね。市民学芸員でこちらの加藤委員も入っております郷土を学ぶ会という会があります。その会で基礎的な出羽三山塚の場所等はだいたい把握したり、写真撮ったりしていますので、そういったデータを使わせていただいたり、加藤委員の方も絵馬の調査をしてくださっていますので、そういった奉納額、絵馬などの情報などは郷土を学ぶ会や加藤委員などから情報いただきながらやっておりますし、企画展ワーキンググループを作っております、八日講の調査などを協働でやっております。それからこちらの企画展を発案したきっかけですけど、近年出羽三山の八日講があちこちの地域で終了し、行屋が解体されているということが続いております。現在、博物館の方にも下泉・下新田・久保田の行屋の資料が寄贈されてきています。ですので、過去に八日講に参加していた人や今参加している人たちに、いろんな地域にまだ八日講が残っていることや、やめちゃったけどやっていた地域がこれだけあるということを見ていただきたいので、木曾野委員がおっしゃってるような講をやっている人たちが団体で来るという効果も実は期待しているところです。

伊藤委員長 よろしいでしょうか。その他何かございますか。

加藤委員 博物館の活動のPRは、非常に大事なことだと思います。例えば友の会よりは、地域の回覧板でも回しているのでしょうか。皆さんが一番見るのは地域の回覧板なので、効果が高いと思います。

私もあちこち回る中で聞こえてくるのは、地域で持っている資料だとか、そういうものを博物館に預けたという話も結構聞くんですけれども、その中で、その後何もフォローがない。フォローがないっていうのは結局せっかく提供したのに、どう広めていってるのかわからない。フィードバックがないというふうな話をよく聞くんです。やっぱりあの提供する側としては、これを何らかの形で活用してもらいたいという気持ちがあると思います。新しい資料の展示というのを一つ考えた方がいいのかなと思います。例えばそではくの森でしたか、あの部屋を使って新しい資料を展示します。そういうものをすることによって、次にそれを見に来た人が、じゃあ、うちにもこういうものがあるから、博物館に提供してみようとどんどん新しい眠っている資料が集まってくるのではという気がしています。そういうふうなフィードバックできるような体制を作られたらいいかなと思います。

事務局 資料を提供したのに、フィードバックがないという声を聞くというお話ですけど、いただいた資料を全て活用しきることはなかなか難しいことではあるのですが、なるべくいただきました資料を皆さんに見えていただけるように、企画展の中に地域資料の活用を多く取り入れたり、努力はしているつもりでございます。あと、テーマを持った展示の中に取り込みにくいものを展示するのに、数年に1回「くらだし・おひろめ」という新収蔵資料展も行っております。あとは、ロビーを活用したミニ展示も行っています。もっとマメにやっていければいいのですが、やはり展示として見せるには説明も作らなければいけない、それなりに整えなければいけないので時間もかかるということで、なかなか頻繁にはできません。また実物を展示するのが難しいものや、もっと多くの方、博物館に来館できない方にも見ていただけるように、ホームページでの資料紹介も行っております。こちらもう少し力を入れて、年間の更新回数も増やせたらと思っております。今でもできる限りのことをやっているのですが、まだまだ足りないことがあるのかなと思いますので、今後とも努力していきたいと思います。また、提供していただいた資料を使う時は必ず提供者のお名前も披

露しております。

加藤委員 企画展まで待つようでは、提供者が満足しない。せっかく提供したのに、もう何年も眠っていて、フィードバックが何もないという風な不満があつて、よく聞くんです。ですから、1年以内だとか6ヶ月以内とかで、こういうものを誰それから提供を受けました、こういうものですよという風に、スピード感を持ってやらないと、新しい資料が集まってこない。やれば、それが市民に対するPRにもなるわけです。そしていい方の循環になる、それを是非やってほしいと思います。時間もかかるかもしれませんが、それを考えた方がいいと思います。

事務局 ご意見として受け止めたいと思います。現状の人員と事業量ではなかなか難しいとは思いますが、努力はしたいと思います。

伊藤委員長 その他、何かございますか。

平川委員 博学連携ということで、郷土博物館の皆さんは、学校はそれぞれ事情が違いますけれども、それに臨機応変に対応してくださっているのが本当にありがたいなと思います。例えば3年生の、コロナでしばらくできなかった進藤家できな粉を作る体験、やっぱり本物に触れるというのはすごく現場としてはありがたいことですし、教育的な効果も高まるのかなっていうふうに思います。やはり今後も、例えば6年生だと土器。実際に本物に触れさせてくださる、そういうのはまたこれからも大切にしていきたいなと思うところです。また、資料の貸し出しが今年度あまり良くなかったというところがあるので、また校長会の方でも話をしていければと思います。

先ほど企画展で、三山の方が出ておりましたが、古墳の方も楽しみだなと思います。ちょうど6年生が歴史公民の形で勉強し、先に公民を勉強して、古墳の学習がすぐ側近であるので、ぜひ子どもたちにも行ってほしいと思います。私は個人的に担任だった頃、博物館職員の方にこの周りを案内してもらって、これも古墳です、これも古墳ですと言って、子どもたちが驚く姿というのがすごく印象的で、いいなあと思ったんですけど、どのような企画なのかちょっ

とまだ分かりませんが、楽しみにしておりますし、また学校の方でも目いっぱい宣伝させていただきますので、よろしくお願いいたします。

伊藤委員長 学校の方でPRしていただけるということです。
その他ということで何かありますか。

事務局 本日皆様のお手元にお配りしました資料の中に整備活用計画策定委員会委員の選出についてという文書があるのですが、こちらの委員の選出について博物館協議会の方に依頼がございまして、本来でしたらこの席で皆様と協議の上で選出するべきところですが締め切りの関係で委員長と相談の上、木曾野委員にお受けいただきましたので、ご紹介いたします。それから生涯学習推進大会には実行委員として今井委員にご協力いただいております。

伊藤委員長 その他よろしいですか。よろしければ、閉会とします。
みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

事務局 慎重審議ありがとうございました。令和5年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会

令和5年度第3回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和6年2月8日(木)
午前10時から11時40分
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 議 題

- (1) 令和5年度郷土博物館事業の成果と課題について
- (2) 令和6年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに
令和6年度事業計画(案)について
- (3) その他

3 閉 会

第 2 1 期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

氏 名	選 出 区 分	備 考
ひらかわ まこと 平川 真	学校教育 長浦小校長	新任
やまもと ひろし 山本 博	社会教育 文化協会	1 期目
ともだ けんじ 友田 賢司	社会教育 子ども会育成会	2 期目
いまい けいこ 今井 恵子	社会教育 郷土博物館友の会	1 期目
かとう まさと 加藤 正人	社会教育 市民学芸員	1 期目
きそ の まき 木曾野 真紀	家庭教育 保育ボランティアひよこ	1 期目
いとう まこと 伊藤 誠	学識経験者	9 期目
じびき ひさゆき 地引 尚幸	学識経験者	1 期目
こんどう さとし 近藤 敏	学識経験者	1 期目
からき よしあき 唐木 義昭	学識経験者	3 期目

任 期 令和 5 年 2 月 1 日から令和 7 年 1 月 3 1 日まで

議題（１） 令和5年度郷土博物館事業の成果と課題について

令和5年度袖ヶ浦市郷土博物館重点施策

1月31日現在

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。				
	項目	事業目標値	実績	備考
①調査研究	袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査		そではく考古学講座で活用	
	袖ヶ浦市内の生物に関する調査		令和５年度企画展で活用	
	中世荘園に関する調査		調査研究中。常設展示で活用	
	旧石器時代に関する調査		調査研究中	
	古代の植物利用に関する調査		調査研究中	
	■成果 調査の成果を講座（そではく考古学講座）に活用することができた。調査の成果を企画展に活用することができた。 ■課題 学芸員が業務の中で調査に携わることができる時間が限られており、企画展等といった機会がないと十分に調査の時間が取れない。			
②地域資料管理活用事業の展開	地域資料の調査収集及び活用		地域資料購入0件、活用8件	購入対象地域資料は調査中。活用は企画展Ⅰ・企画展Ⅱ・実習展・袖ヶ浦学2回・考古学講座・トピックス展示「新指定文化財展」・紫微宮星座呪符木簡展示
	収蔵保管資料の適正な管理		通年実施	温湿度管理。 収蔵庫２空調機改修工事
	収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）		1件（資料数31点）	
	ホームページによる情報発信	情報メディアによる資料公開 年３回	２回、随時HP更新	紫微宮星座呪符木簡、井出先生の写真館番外編
	古文書等表題データベース作成		1,323件	
	埋蔵文化財写真デジタル化		13遺跡分	「市内遺跡」は１年分を１遺跡分として計上
	『袖ヶ浦市史研究』第22号原稿募集		12名応募	
■成果 ・令和6年度は、7件の寄贈を受けた。埋蔵文化財写真のデジタル化は、昨年度に引き続き会計年度任用職員よって作業を進め、13遺跡分を終了した。館蔵資料修復も委託により計画的に進んでいる。 ■課題等 ・市内に所在する資料の散逸について、常に情報収集、調査が必要である。特に、インターネットで販売される地域資料も多く、今後もそのような場所で売買されている資料については、購入、収集する必要がある。 ・ホームページで資料紹介を実施しているが、より多くの情報発信をしていく必要がある。 ・館蔵資料の修復は、資料の価値や重要性を見極め、優先準備を付して計画的に進める必要がある。				
③民俗文化財伝承・活用事業	上総掘り技術の記録映像制作 【令和５年度重点取組】		メンテナンス・道具編 検討委員会２回実施	
	上総掘り講演会の開催 【令和５年度重点取組】		1回	2月25日開催「上総掘りを伝えるために」
	上総掘り技術伝承用刊行物刊行 【令和５年度重点取組】		3月15日刊行予定	
	■成果 ・国庫補助事業『民俗文化財等伝承・活用事業』は、上総掘りの技術の記録映像撮影を実施し、計画された撮影内容はすべて終了した。４年間の集大成として、講演会の開催と刊行物の編集を進めた。			
(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。				
	項目	事業目標値	実績	備考
①展示更新推進事業の展開		本館常設展入館者数 23,000人以上	21,593人	1/31現在。R4年度は1/31時点で17,479人
	企画展２回			
	i 企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」	企画展入館者数 3,000人以上／回	8,198人	
	ii 企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」	企画展入館者数 3,000人以上／回	6,476人	
		特別展・企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年３件	6件	企画展Ⅰ・企画展Ⅱ・実習展「関東大震災から100年-震災の教訓から考える袖ヶ浦の未来-」・トピックス展示「新指定文化財展-鮎富神社唯一社頭年中行事帳-」・紫微宮星座呪符木簡展示・常設展示

① 展示更新推進事業の展開		企画展開催時の関連事業実施 企画展 1 回につき 2 回	10回	●企画展Ⅰ「こんな本読んでたんだね、戦時中の子どもたち」5/5・展示解説会 3 回 ●企画展Ⅱ「上池いきもの調査隊！ 拡大スペシャル」・関連講座「里山を歩いて考えよう」・そではくからの挑戦状「めざせ外来種博士！」・展示解説会 3 回
	常設展示の部分更新（近現代）		3月 実施予定	戦争関係展示の充実（企画展Ⅰの成果活用）
	旧進藤家住宅での各種展示（年 1 回）		5回	盆栽展 2 回・ミュージアムフェスティバル 1 回・五月人形展示 1 回・内房総アートフェス 1 回
	ロビー展示・ミニ企画展等の開催		5回	実習展「関東大震災から100年-震災の教訓から考える袖ヶ浦の未来-」・トピックス展示「新指定文化財展-鮎富神社唯一社頭年中行事帳-」・ロビーパネル展示「千葉の博物館」・紫微宮星座呪符木簡展示・万葉こどもまつり「みんなでお絵描き」作品展
	千葉県誕生150周年記念事業 百年後芸術祭 内房総アートフェス協力		旧進藤家住宅、アクアラインなるほど館、古代復元住居（弥生時代）	
	万葉植物園の活用（市民学芸員協働実施）【令和 5 年度重点取組】			秋の万葉こどもまつり、QRコード
	■成果 ・企画展・特別展からロビー展示まで、多岐にわたる内容で展示を行い、市民への資料公開、情報提供に努めることができた。 ■課題 ・本館常設展入館者数は、1月31日現在21,593人で、事業目標の23,000人は達成見込みであるが、来館が難しい利用者に対して、デジタルツールを利用した発信の検討も課題の一つである。 ・アクアラインなるほど館は希望の申出があるときに職員が対応し見学をさせていただいているが、展示施設としてより有効な活用方法を検討する必要がある。 ・2回の企画展はどちらも好評であり、企画展Ⅰは、来館者からの情報で展示内容が成長し続ける双方向性のある展示を実現した。企画展Ⅱは低年齢の子どもがいる家族層を取り込むことで入館者獲得に大きく貢献した。 ・万葉植物園の活用については、QRコードの設置試行による展示解説機能の強化を試みた。			
② 教育普及事業の推進	考古学専門講座の開催		5回	テーマ「弥生時代研究最前線」
	友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催		4回	もっとしりたい講座、自然と歴史の散策会、秋の万葉こどもまつり
	博物館講座「袖ヶ浦学」の開催		5回	第167回「城からたどる袖ヶ浦の戦国時代」第168回「拓本ってなに？～身近なものから国宝までを写しとる技」第169回「歴史から地震を学ぶ」第170回「袖ヶ浦のお医者さん列伝」第171回「そではく冬のバードウォッチング2024」
	夏の子ども向けイベントの開催		1回	「上池いきもの調査隊！拡大スペシャル」
	ミュージアムフェスティバルの開催		1回（2日間）	6月10日（土）・11日（日）
	公民館事業対応		15件	袖ヶ浦市民会館・平川公民館乳幼児家庭教育学級、波岡公民館歴史講座 八幡台公民館郷土史講座、根形公民館地域再発見講座、平岡公民館シニアセミナー、退職校長会歴史ウォーク、西清川公民館歴史学級、畑沢公民館歴史講座、岩根西公民館郷土史講座等
	■成果 ・公民館等から、見学対応や講師の依頼は18件あった。内容も多様で延べ370人の人々が地域資料に触れるなど深い学びにつなげることができた。 ミュージアムフェスティバルは、4年ぶりに通常開催が実現した。博物館と友の会の協働事業は、5回実施した。 ■課題 オンライン講座などについては、事例も他事業で実施が見られることから、そのための環境整備や、導入について検討する必要がある。			
③ 業の学拡充 業の学拡充 業の学拡充	校外学習支援（市内・市外）	年15件	12件572人	1月31日現在
	資料の貸出	年6件	2件10点	平岡小、奈良輪小
	学習相談		13件	

③ 博 学 連 絡 事 業 の 拡 充	教員対象研修の実施		0回	
	学校向けワークシートの作成・活用		3件	小学校3年・6年の校外学習で使用・3年蔵波小・根形小、6年根形小
	アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)	アウトリーチ 実施回数 年 3 件	5件572人	蔵波小3・6年、昭和小3・6年、根形中1年
	山野貝塚体験型プログラム実践（中学生版）		1件	根形中学校1年
	学校図書館との連携促進（物流システムの活用等）		2件	学校図書館への資料貸出（平岡小、奈良輪小）
■成果 ・小学校3年生・6年生の体験学習については、事前打ち合わせをすることで学校の要望に応えることができた。3年生の唐箕体験は市民学芸員のアイデアでコロナ後に新たに取入れたが大変好評で、体験メニューとして定着した。 ■課題 ・学校への資料・図書の貸し出しは、2件あったが、物流システムの利用については実績がなかった。また、学校からの資料についての問い合わせについても適宜対応したが、教材の提供について具体的に学校に提示する必要がある。 ・山野貝塚学習プログラムは、今後も内容の充実を図りながら実践していく。				
④ み ん な の に 推 や さ し い 事	・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）		38件426人	
	・多言語対応の推進		英語版ガイドブックの素案を作成した。	他館の実施状況について調査
■成果 ・高齢者施設の利用者が定期的に来館し、博物館資料に親しむことで、高齢者の生活に刺激を与えることができた。 ■課題 ・高齢者施設からの利用について、満足度がわからないため、アンケート等を実施する必要がある。 ・多言語対応は、人員不足により積極的な取り組みができていないため、市民学芸員等と連携してできる方法を検討する必要がある。				
⑤ ボ ラ ン テ ィ ア の 養 成 と 支 援	市民学芸員主催イベントへの支援	市民学芸員自主企画事業の実施 年 3 回	4回	五月人形展示、七夕展示、秋の万葉こどもまつり（市民学芸員18名参加）、お飾りづくり
	市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート	市民学芸員研修の実施 年 2 回	1回実施済、2月に2回目実施予定	研修年間テーマ「国際理解と宗教」、第 1 回移動研修東京ジャーミイ・トルコ文化センター、JICA 東京、駒澤大学禅文化歴史博物館の見学。第 2 回講座「日本人ムスリムによるイスラームのお話」
	市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 【令和5年度重点取組】	講座年 8 回	11回	
	〃	新規市民学芸員 2 人	7名加入	
	他機関事業への協力		市民学芸員7名参加	9/30実施「がうらっこ未来 CANvas」ワークショップへの協力
	地域史掘り起こし研究への支援		市民学芸員郷土を学ぶ会活動支援及び助言	
	グループ活動の支援		2グループ活動支援	万葉グループ、郷土を学ぶ会
	企画展ワーキンググループ活動への支援		13名参加	
	館蔵資料整理		企画展「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」の準備として実施	
	県主催研修会等への参加		千葉県文化財管理指導講習会へ2名参加	万葉グループ
■成果 ・昨年度に引き続き市民学芸員養成講座を開催した。11回の講座を終了し今年度は7名の新規市民学芸員が加入した。令和6年度企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」開催に向けてワーキンググループを結成し、活動することができた。 ■課題 ・市民学芸員養成講座を開催したことによって登録者数が増加したものの、校外学習やイベントの開催については必要人数を確保することが難しい状況が見られ、個々のボランティア活動に特化した人材を募集、養成する必要がある。				
承 ⑥ 研 上 総 究 会 掘 活 会 動 技 技 術 術 支 支 伝 伝	活動場所の確保		「水のふるさと」における活動支援	
	資材調達		消耗品等購入	
	活動PR		テレビ撮影協力	
	補助金による活動援助（映像制作ほか）		国庫補助事業による技術の伝承及び保存活動支援	「メンテナンス・道具編」
⑦ 郷 土 動 物 支 館 友 の 会	『友の会だより 53・54号』の発行		『友の会だより』53・54号の発行	
	友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会)への支援		グループ活動への支援	
	友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援		新春凧上げ会、盆栽展（2回）開催への支援	

会 活	「もっと知りたい講座」の開催		1回実施済	
⑧ 幼児 館期 体か ら の 博 物	そではくのもり（市民サロン）での親子での体験活動		そではくの森はコロナ禍で閉鎖。備品も劣化したため撤去した。	新たな利活用を検討する。
	親子向け事業の開催		企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」と関連事業の開催 秋の万葉こどもまつりの開催	
(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。				
	項目	事業目標値	実績	備考
施設 管理 事業	安全点検の実施(月1回)		月1回施設安全点検実施	
	避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施		本館火災避難訓練実施、1月25日、旧進藤家住宅で避難訓練、消火訓練実施	
	I P M（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践		毎日	
	日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保		収蔵庫2系統空調機器更新工事 本館浄化槽水中ブローア配管及び分解修繕 多機能トイレ自動ドア装置交換修繕	
(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。				
	項目	事業目標値	実績	備考
① 周辺 施設 との 連 携	公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動(出前講座・展示・現場出張サービス)		12件	館内での対応含む(公民館講座による博物館の見学対応等)
	袖ヶ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。		袖ヶ浦公園を利用した観察会等 2件 根形公民館講座への講師派遣 1件 根形公民館だよりへの寄稿 4回	
生 物 館 実 習 受 入	② 学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。		1名 7日間 ロビー展示開催	
③ 各 博 物 館 協 会 協 議 会 等 へ の 参 加	日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。		君津地方公立博物館協議会研修会参加 3名 千葉県博物館協会研修会参加 3名 関東地区博物館協議会研修会参加 1名 全国博物館大会参加 4名 全国博物館大会開催協力(実行委員、協力員)	
	千葉県史料保存活用連絡協議会		1名(3回)	
④ の 景 観 整 備	緑地管理		シルバーによる整備実施	
	万葉植物園等屋外附属施設管理		会計年度任用職員による整備実施	
	公園管理組合との共通認識をもった管理		公園管理組合への情報提供・意見交換	
⑤ 把 握	文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。		研修会参加 2件	全国博物館長会議、全国博物館大会
⑥ 庁 内 関 係 各 課 と の 連 携	生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。		山野貝塚整備基本策定委員会への参加 埋蔵文化財・指定文化財情報の共有	
	公民館・図書館との連携。		講座への講師派遣 7件 図書館展示への協力 1件	
	■成果 ・生涯学習課との連携によって、より最新の文化財情報を事業に反映することができた。 ・普段、博物館に来館しない公民館・図書館等の利用者に、博物館の活動を周知することができた。 ■課題 ・公民館・図書館との連携については、さらなる双方向性や継続性が必要である。			

議題（２） 令和６年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに 令和６年度事業計画(案)について

令和６年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)

※アンダーラインは令和５年度からの変更箇所

１．経営方針

郷土博物館では、第３期教育ビジョンの基本目標である「未来を創る 心豊かで いきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。

そのため、郷土博物館は、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す４つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとした人材の育成にも力を入れて参ります。

引き続き、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

２．重点施策

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広く PR し博物館利用の促進を図ります。

調査研究

- ・袖ヶ浦市の弥生時代・古墳時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・旧石器時代に関する調査
- ・古代の植物利用に関する調査 等

地域資料管理活用事業の展開

- ・地域資料の調査収集及び活用
- ・収蔵保管資料の適正な管理
- ・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・ホームページによる情報発信
(事業の目標値：情報メディアによる資料公開 年３回)
- ・古文書等表題データベース作成

- ・埋蔵文化財写真デジタル化
 - ・『袖ヶ浦市史研究』第22号刊行
- 民俗文化財伝承・活用事業を令和6年度削除

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民の多様なニーズを考慮しながら、企画展や各種イベントを計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。

博学連携事業は小学校の学習指導要領に基づき、更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、博物館活動のパートナーである市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

① 展示更新推進事業の展開 （事業の目標値：本館常設展入館者数 23,000人以上）

- ・企画展2回 （事業の目標値：企画展入館者数 4,500人以上／回）

令和6年度重点取組

i 企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」

ii 企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」

（事業の目標値：企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年2件

企画展開催時の関連事業実施 企画展1回につき2回）

- ・常設展示の部分更新
- ・旧進藤家住宅での各種展示（事業の目標値：年1回）
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催
- ・万葉植物園の活用（市民学芸員協働実施） 令和6年度重点取組
- ・内房総アートフェスへの協力（旧進藤家住宅展示・アクアラインなるほど館展示・上総掘り関連展示・ワークショップへの協力）

② 教育普及事業の推進 （事業の目標値：諸団体との協働事業の実施回数 年5回）

- ・考古学専門講座の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・夏の子ども向けイベントの開催
- ・市民学芸員イベントの開催

③ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外)（事業の目標値 年15件）
 - ・資料の貸出（事業の目標値 年6件）
 - ・学習相談
 - ・教員対象研修の実施
 - ・学校向けワークシートの作成・更新・活用
 - ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)
- （事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年3件）

- ・山野貝塚体験型プログラムの開発
- ・学校図書館との連携促進（物流システムの活用）
- ④ みんなにやさしい事業の推進
 - ・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）
 - ・多言語対応の推進
- ⑤ ボランティアの養成と支援
 - ・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援
(事業の目標値：市民学芸員自主企画事業の実施 年3回以上)
 - ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート
(事業の目標値：市民学芸員研修の実施 年2回以上)
 - ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 令和6年度重点取組
(事業の目標値：新規市民学芸員2人以上)
 - ・地域史掘り起こし研究への支援
 - ・グループ活動の支援
 - ・館蔵資料整理
 - ・協働による企画展の開催（企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」）
- ⑥ 上総掘り技術伝承研究会活動の支援
 - ・活動場所の確保
 - ・資材調達
 - ・活動PR
 - ・補助金による活動援助（動画制作ほか）を令和6年度削除
- ⑦ 郷土博物館友の会活動の支援
 - ・『友の会だより 55・56号』の発行
 - ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)への支援
 - ・友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援

(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設について定期的に点検を実施し、状況を把握します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理し、安全な学習環境を整えます。

施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・IPM（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保
 本館浄化槽チェッカープレート交換修繕

(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

① 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館等との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

② 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

③ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会（令和6・7年度役員）、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。
- ・日本博物館協会千葉県大会への協力（実行委員）を令和5年度削除

④ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

⑤ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

⑥ 庁内関係各課との連携

- ・生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・生涯学習課と連携し、山野貝塚の整備計画の検討及び山野貝塚展示室の充実を図るための検討を行う。
- ・公民館・図書館との連携

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会		年3回開催				第1回				第2回			第3回	
博物館運営事業														
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催		第2回実行委員会	8日(土)・9日(日) 第3回実行委員会									
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催		第172回袖ヶ浦学 (友の会共催)		第173回袖ヶ浦学			第174回袖ヶ浦学		第175回袖ヶ浦学		第176回袖ヶ浦学	
	博物館学芸員実習	7月23日～8月2日 (10日間) 5名募集		・大学からの実習依頼文 ・回答		実習予定表作成・送付 7月23日(火)～8月2日(金)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付 博物館実習	7月23日(火)～8月2日(金)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付					令和7年度要項作成・HP掲載		
	その他			11日(土)県民の日事業		27日(土)ジュニア学芸員養成講座								
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出		← 小学校6年生 校外学習								← 小学校3年生 校外学習		
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施												
	その他													
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展年2回開催		企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」 5月3日(金)～7月15日(日) 関連事業6月1日(土)、6月15日(土) 展示解説会:5月4日(土)、6月8日(土)、7月13日(土)					企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」 10月5日(土)～12月8日(日)					
	トピックス展 ミニ展示											ロビー展示「日本の郷土風」		
	旧進藤家住宅		内房総アートフェス 3月23日(土)～5月26日(日) ※アクアラインなるほど館にも展示 袖ヶ浦公園で上総掘り関連展示		盆栽展(ミュージアムフェスティバル)					盆栽展			ひな人形展示(旧進藤家住宅)	
	万葉植物園	屋外施設の活用												
地域資料管理活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託			環境調査(1回目)				環境調査(2回目)			資料燻蒸		
	史料修復 奈良輪漁協				史料修復委託執行伺い・契約							史料修復成果品納品		
	『市史研究』第22号	編集・刊行												
市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園) ・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室)		22日(水)フォローアップ研修(JAXA筑波宇宙センター、産総研地質標本館) ※友の会と合同実施予定	8日(土)・9日(日) ミュージアム・フェスティバル						お飾りづくり		22日(土)市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	市民学芸員養成講座	年間11回・広報で募集	20日(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	18日(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	22日(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	20日(土)市民学芸員養成講座④IPMについて学ぼう(博物館実習と合同)	24日(土)市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口採点会	14日(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	19日(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	16日(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	14日(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	18日(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎	22日(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
施設管理事業		施設の修繕・工事等 本館浄化槽チェック カープレート交換 修繕												
友の会 8グループ (仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)活動		協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会	総会	22日(水)第1回自然と歴史の散策会 ※市民学芸員フォローアップ研修と合同実施予定	8日(土)・9日(日) ミュージアム・フェスティバル				第1回役員会	第2回自然と歴史の散策会		新春風揚げ大会	第2回役員会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会		8日(土)・9日(日) ミュージアム・フェスティバル									
休館日			1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)	7日(火)・13日(月)・20日(月)・27日(月)	3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)	1日(月)・8日(月)・16日(火)・22日(月)・29日(月)	5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・9日(月)・17日(火)・24日(火)・30日(月)	7日(月)・15日(火)・21日(月)・28日(月)	5日(火)・11日(月)・18日(月)・25日(月)	2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・26日(木)～31日(火)	1日(水)～4日(土)・6日(月)・14日(火)・20日(月)・27日(月)	3日(月)・10日(月)・12日(水)・17日(月)・25日(火)	3日(月)・10日(月)・17日(月)・21日(金)・24日(月)・31日(月)